

# 小児マヒ生ワクチンの再投与

## 8月<sup>26日</sup><sub>28日</sub> 希望者は期日をお忘れなく

夏から秋にかけて小児マヒの最盛期です。殊に昨年、一昨年と全国的に発生した小児マヒが本県にも県南地区に多発し乳幼児をもつ親たちを心配させています。このため、7月14日から26日までソークワクチンによる予防接種（第一回）を実施しましたが、これだけでは流行期、異常多発の予想される非常対策としては、接種人員があまりにも少なく不完全であるので、7月31日から8月4日まで市内の生後3ヶ月以上6才未満の乳幼児6,270人を対象に「生ワクチン」の投与を行い、その62%が希望投与をうけました。

### 追加投与は保健所で

しかし、生ワクチンの指定投与日に、発熱や下痢など禁忌に該当するため投与をさしひかえた乳幼児もありますし、また「生ワクチン」の投与日を忘れていたり、知らないでいる人もあると思われるので、このような人達を対象に、いま一度つぎの日程で追加投与を行うことになりました。希望投与でもあり該当者には別に通知を出さないことになっていきますから、希望者は忘れず投与をうけてください。

期日 8月26日（土）同28日（月）

時間 午前9時から同11時まで

場所 大館保健所（栄町）

該当者 昭和30年4月2日から、昭和36年3月31日までの出生者で、前回生ワクチンの投与をうけなかった人。（ソークワクチンの接種をうけていてもよい）

料金は無料ですただし、つぎにあてはまる乳幼児は投与をうけないでください。

- ①発熱、下痢など急性の病気の人。
- ②重症の結核、心臓血管系病の人。
- ③病後で衰弱している人。
- ④栄養障害の著しい人。
- ⑤一週間以内に他の予防接種をした人
- ⑥抜歯や扁桃腺の手術をうけたばかりの人。
- ⑦その他、投与に際して医師が診断を行います、それによって不適当とみられる病気にかかっている人。

### 生ワクチンの特質

- 1、安全性＝ソークワクチンは世界的に安全性が認められているが、生ワクチンの場合、未だ確証がないが、学者間の意見では安心できる方向にある。ソ

連などの大規模使用においても危険な現象や事実は認められていない。

副作用は生ワクチン、ソークワクチンとも実用上問題にならない。

- 2、効果＝生ワクチンは腸管免疫を与えるので、強力なウイルスの増殖を除くため、集団投与によりマヒをおこすウイルスのまん延を阻止する効果は、ソークワクチンより優れている。



マヒに対する予防効果は、ソークワクチンでも80～90%であるが、生ワクチンは90%以上といわれる。

免疫力の発生は血清検査によると、生ワクチン投与後1カ月でかなりの免疫が認められる。ソークワクチンは3回の接種を必要とするので時間がかかる。

免疫の持続期間はソークワクチンでは2年程度とみられるが、生ワクチンはそれ以上だと推定されている。

更生省では「生ワクチン」の投与は流行期に対する緊急対策として行っているため、ソークワクチンによる予防接種を行っている人は、生ワクチンの投与をうけても3回の接種をおえるようにすすめています。

（写真は生ワクチン投与風景。小さい子にはサジでシロップ、大きい子にはアメ玉よりのボンボン）

## ソークワクチン予防接種の日程が変更されました。

◎時間はいづれも午後1時30分から午後3時まで

- ◆7月20日に第1回の接種をうけた人は8月22日に石田病院（長木地区）
  - ◆7月21日に第1回の接種をうけた人は8月23日に石田病院（釈迦内地区）
  - ◆7月24日に第1回の接種をうけた人は9月5日に公立小児科（上川沿、下川沿地区） ◆7月25日に第1回の接種をうけた人は9月6日公立小児科（二井田、真中地区）
  - ◆7月26日に第1回の接種をうけた人は9月1日に十二所佐藤医院（十二所）
- 33年4月1日から34年9月30日と、35年7月1日から同年9月30日までの出生者で、あらたに接種をうけようとする人や接種もれの人には第1回を9月12日、第2回を9月26日に公立小児科で行います

## 上手になつた鼓笛隊

—あとは国体をまつばかり—



炎天下、うだるような暑さにもめげず城南小、城西小、桂城小、有浦小の4校児童800人による鼓笛隊合同練習が8月1日市営球場で行われました。会場には観客もちらほら、その上達ぶりに深く感嘆の声をもらしていた。あとは国体を待つばかり子供たちの表情は自信にあふれていた。

